

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和3年度学校評価 結果

達成度（評価）	
A	十分達成できている
B	おおむね達成できている
C	やや不十分である
D	不十分である

学校名	白石町立 福富中学校
1 前年度 評価結果の概要	<ul style="list-style-type: none"> 学力向上に関しては、定期テスト前の「プレテスト」、「自主学習ノート」の実施を中心に取り組んできた。家庭学習と授業を連携させることで、学習への意欲を向上させることができた。 一昨年度の「全教員による道徳授業の実践」に引き続き、昨年度は新たに「異教科間TT」及び「予習型授業」に取り組んだ。「異教科間TT」については、お互いの授業を参観およびT2として入ることで、それぞれの指導技術を学び合うことができ、相互の授業改善につながった。「予習型授業」については、生徒の「主体的・対話的な深い学び」を実現するために予習と授業の連動が必要であることを、全教職員で共通理解を回っている。より効果的な予習課題と授業構成の在り方について改善を加え、今後も継続して取り組みたい。 生徒指導面では、おおむね適切な対応ができた。昨年度は組織的に一貫性のある対応をすること、チームを組んで対応することをめざして取り組んだ。今後も、全職員で協働した取組をしていきたい。 学校経営面では、教職員の「働き方」に対する意識の改革に努めた。教職員の仕事の効率化や環境整備に努め、負担感なく、意欲的にチームとして学校教育目標の達成に向うことができるように、引き続き取り組みたい。
2 学校教育目標	夢を持ち、豊かに生きる生徒の育成 ～ コミュニティ・スクールを通して ～

3 本年度の重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ①教職員の協働力を発揮した小中連携と地域連携・・・縦系となる「小中連携」、横系となる「地域連携」 ②確かな学力の定着と教師の指導力向上・・・「基礎基本の定着を図り、主体的に対話的な深い学びに向けた授業改善」 ③新しい時代に必要となる資質・能力の育成・・・「思考力・判断力・表現力」を高める指導・支援の工夫 ④地域と共にある学校：コミュニティ・スクールの推進・・・「学校運営協議会」を中心として、社会性・町民性・人間性を育む
------------	--

4 重点取組内容・成果指標 中間評価 5 最終評価

(1)共通評価項目				中間評価		最終評価		学校関係者評価	
評価項目	重点取組	成果指標 (数値目標)	具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価	
				進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言
●学力の向上	●全職員による共通理解と共通実践	●学力向上対策評価シートに示したマイプランの成果指標を達成した教師80%以上を目指す。	・教職員間でマイプランを共有するとともに、校内研修等により取組の促進を図る。	B	・「振り返り」や「話し合う活動」に、多くの教員が取り組むことができています。 ・今後は、質的な高まりを実現できるよう、校内研修等により取組の促進を図りたい。	A	・マイプランの成果指標を達成できた自己申告する教師は84%。 ・年2回の授業研究を通して、「振り返り」「話し合い活動」とともに、質的に高まってきている。	A	・スクールアシスタント制度や自ら考える時間など様々な配慮で多くの生徒のニーズに応えていると思う。
	○学習内容の定着に向けた分かりやすい授業の実践	○アンケートで「『学び合い』を取り入れた授業を通して学力が向上している」と回答した生徒80%以上を目指す。 ○「用語等を使って、具体的に振り返りを記述することができた」生徒80%以上を目指す。	・学校で統一した型に倣い、全教科半分以上の授業で「話し合う活動」を設定する。 ・振り返りの文例を示したり、振り返りの視点を示したりして、具体的に振り返らせるようにする。	B	・7月に実施したアンケート調査で肯定的に回答した生徒が81%だった。 ・振り返りでは継続期間や手立ての状況等により、教科によってアンケート結果にばらつきがあるので、効果的な手立てを共有していく必要がある。	A	・12月に実施したアンケート調査で「『学び合い』を取り入れた授業を通して学力が向上している」と回答した生徒87%、「用語等を使って、具体的に振り返りを記述することができた」生徒80%であった。 ・継続した取り組みが生徒の有用感につながってきた。	A	・80%以上の生徒ができていますので、学力向上も出てきていると思う。 ・生徒評価で8割以上が肯定的な結果だから、効果が出ていると思う。
	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○アンケートで「人の気持ちが分かる」等の思いやりの項目90%以上を目指す。	・学年全職員で道徳の授業を実施する。 ・学期ごとの授業評価を実施する。 ・ふれあい道徳の授業で「思いやり」に関する内容を学校共通実施する。	A	・7月に実施したアンケートでは、肯定的な意見が91%で目標の値を超えることができた。 ・学年単位の授業実践や学期ごとの授業の振り返りもできている。	A	・12月の生活アンケートでも肯定的な意見が95%以上を超えていたので、年間を通して思いやりやモラル等に関する意識を高めることができた。 ・年間を通して学年全体で道徳の授業に取り組むことができたり、情報モラルに関する集会を開いたりすることができた。	A	・学校の指導のおかげで育っていると思う。 ・最近はコロナ等で行事を見る機会は少ないが、何気ない地域での子どもの様子を見て育っていると思う。
●心の教育	●いじめの早期発見、早期対応体制の充実	○いじめ防止等(いじめの定義、いじめの防止等のための取組、事案対処等)について組織的対応ができていると回答した教員80%以上を目指す。	・毎月の生活アンケートを実施する。 ・年2回の教育相談を実施する。 ・教職員間の報告・連絡・相談を徹底する。 ・いじめ対応時の役割分担を明確にする。	A	・毎月の生活アンケートを実施し、気になる回答について学年や教育相談部会で情報を共有し、対応することができている。 ・認知した事案について組織的対応を行い、外部の機関とも連携しながら解決に向けた取り組みを続けている。	A	・毎月のアンケートから、解決すべき事象が発生後、学年を中心に、迅速に対応できている。 ・報告・連絡・相談の連携が取れており、職員の共通理解もできていたと感じる。	A	・いじめ防止委員会等もあり、生徒の心に寄り添っている。 ・細かい対応をさせていただいていると思う。 ・いじめの問題は社会的なものも含め、非常に複雑で難しいですが、その中で学校は十分に果たすべき役割を行い、対応していると思
	◎児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動	◎「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした生徒70%以上を目指す。	・児童生徒の資質・能力を育む授業づくりに関する校内研修等を実施する。 ・各種体験活動では、児童生徒に活動の見通しと学びの振り返りを行う活動を仕組む。	B	・7月に実施したアンケート調査で肯定的に回答した生徒が65%だった。 ・各学年の総合的な学習の時間において、生徒に将来の夢や目標を持たせる活動を展開している。	A	・12月に実施したアンケート調査で肯定的に回答した生徒が80%だった。 ・各学年の総合的な学習の時間において、生徒に将来の夢や目標を持たせる授業や活動を展開している。	A	・生徒アンケートで80%以上が目標を持っていると回答しているので、よかったですと思う。 ・残りの19%の生徒もそうであって欲しいと願っています。指導をよろしく願います。
	●健康・体づくり	●望ましい生活習慣の形成	○「健康に食事は大切」と答える生徒100%を目指す。 ○給食残菜率0%を目指す。	・食に関する意識調査を実施する。 ・給食週間に「食」に関するビデオを生徒に視聴させ、食への関心を高めさせる。 ・保健だより・食育だよりを発行する。	C	・11月の食育週間にとったアンケートでは「健康に食事は大切だと思う」と答えた生徒の数は「そう思う」や「ややそう思う」を合わせると100%であった。 ・昨年度と比べると残菜の量が増えた。フードロスの話など、各教科の授業と連携し、生徒の意識を高めていきたい。	B	・生徒たちの「健康に食事が大切だ」という意識は高い。 ・3年生の英語の授業において、発達途上国の人々の食べ物への意識と自分の食べ物への意識を比べさせた際に、残菜を例に挙げ、反省する生徒も多かった。 ・生徒の意識を高めることができたと感じる。	B
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	○感染症等の予防	○熱中症や新型コロナ・インフルエンザ等予防対策などを通して、健康で安全な学校生活が送れていると回答した生徒80%以上を目指す。	・感染症や熱中症の予防。健康観察の強化、手洗い、マスク着用の徹底、熱中症指数の掲示、冷凍庫の整備等を行う。	A	・7月に実施したアンケート調査で肯定的に回答した生徒は87.8%だった。 ・感染症が流行する冬季に向けて、全校で予防対策を続けている。	A	・教員による保健指導だけでなく、生徒でも手洗いや換気等の基本的な感染症予防の啓発をおこなったことで、12月に実施したアンケート調査では肯定的に回答した生徒が94%に増加した。 ・今後も学校全体で感染症予防に取り組んでいきたい。	A	・現在実施されている事を続けて欲しいと思う。 ・そのような問題を聞いたことは無いので、よく対応されていると思う。
	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在職等時間の上限を遵守する。	・定時退勤日の設定(毎週水曜日) ・学校閉庁日の設定(夏季・冬季休業中) ・部活動休養日の設定(第3日曜日、毎週水曜日、原則週2回の休養日)	B	・定時退勤日の設定は毎週水曜日にできていたが、完全に実施できていなかった。 ・夏季休業中の学校閉庁日の設定は全職員予定通り休暇取得できた。 ・部活動休養日の設定は予定以上にできた。	A	・定時退勤日の設定は毎週水曜日にできており、9割の先生が実施できた。 ・冬季休業中の学校閉庁日の設定は全職員予定通り休暇取得できた。 ・部活動休養日の設定は予定以上にできた。	A	・詳しいことは不明だが、出来ていると思う。
	○多忙感解消	○職員の協働意識を高め、職務の効率化と生徒への指導の充実を図り、多忙感解消とを感じる教職員70%以上を目指す。	・タイムマネジメントを行うと共に、定時退勤日の確実な実施を行う。 ・副担任による担任への協力や支援を行う。	B	・全職員が勤務時間を意識しているものの、定時退勤日の完全実施はできていない。 ・多忙感に関するアンケートを後期に実施する予定である。	A	・全職員が勤務時間を意識しており、定時退勤日の促進につながった。 ・多忙感に関するアンケートを実施した。結果は、75%の教職員が解消またはやや解消としていた。	B	・先生たちの業務負担はあまり減っていないように思える。 ・学校で出来る改革等も限度が来ていると思われる。

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目									
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価	
				進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言
○コミュニティ・スクールの推進	○白石町を目指す4つの重要項目の推進	○4つの項目について、「あいさつ」70%以上、「お手伝い」70%以上「家庭学習」80%以上「自力登校」晴天時100%を目指す。	・教師からの助言や各通信を活用し、生徒への啓発活動を推進する。PTA、学校運営協議会で協力して活動を行う。	B	・7月に実施したアンケート調査で「あいさつ」92%、「お手伝い」68%、「自力登校」晴天時92%だった。「家庭学習」については、各学級の自主学習の取り組み状況から考えると80%以上はあると考える。 ・いろいろな場面を通じての啓発活動がより重要である。	A	・12月に実施したアンケート調査で「あいさつ」95%、「お手伝い」68%、「自力登校」晴天時91%だった。「家庭学習」については、各教科の課題の提出状況から考えると90%を超えている。	A	・推進はされていると思うが、まだ出ていない所もあると思う。 ・保護者への声かけもよくなってもらっているようです。 ・地域との連携はよく行っていると思う。 ・地域と学校が共に手をとってさらに良い教育ができればと思います。
○信頼される教職員としての意識の向上	○信頼される教職員としての意識の向上	○諸会議等で指導し、校内での周知・確認を行う。コンプライアンス意識を強化するとともに、服務規律の堅持100%を目指す。	・職員会議等で指導するだけでなく、長期休業中にサービスの研修を実施する。 ・交通事故防止のため、西部教育事務所発行の運転チェックシート等を活用する。	A	・夏季休業中に小中合同の服務研修を実施できた。 ・交通事故防止を推進するため、西部教育事務所から講師を招いた。安全運転の向上につながった。	A	・随時、服務に関する文書配布や管理職からの指導を実施できた。 ・出張の際、余裕をもって学校を出発させる等の声かけをし、交通事故防止を推進できた。	A	・日頃の取組を見て、一生懸命だと思います。 ・いつも本当にご苦労様です。

●・・・県共通 ○・・・学校独自 ◎・・・志を高める教育	<p>5 総合評価・次年度への展望</p> <ul style="list-style-type: none"> 学力向上に関しては、定期テスト前の「プレテスト」、「自主学習ノート」の実施を中心に取り組んできた。家庭学習と授業を連携させることで、学習への意欲を向上させることができた。 一昨年度の「全教員による道徳授業の実践」に引き続き、今年度は新たに「学びあい学習」に取り組んだ。また、生徒の「主体的・対話的な深い学び」を実現するために「ふりかえり」を中心とした校内研を実施し、全教職員で共通理解を図っている。より効果的な「ふりかえり」と授業構成の在り方について改善を加え、今後も継続して取り組みたい。 生徒指導面では、おおむね適切な対応ができた。今年度は組織的に一貫性のある対応をすること、チームを組んで対応することをめざして取り組んだ。今後も、全職員で協働した取組をしていきたい。 学校経営面では、教職員の「働き方」に対する意識の改革に努めた。教職員の仕事の効率化や環境整備に努め、負担感なく、意欲的にチームとして学校教育目標の達成に向うことができるように、引き続き取り組みたい。
------------------------------	---